

Broadmedia&Entertainment Inter BEE 2023 レポート

エヌジーシー

Flame編集環境を構築

遠隔からアクセスして作業



エヌジーシーの展示ブース

エヌジーシー(NGC)は、オートデスクFlameが動作するシステムをクライアント向けに構築し、顧客の編集環境から自由にアクセスしてローカルマシンと変わらずに作業ができる環境を提供している。

顧客の編集環境とデータセンター間はタークフアイパーで接続し、高速な10G経由でのRDP(Remote Desktop)とテレビュー用のSDI信号をWDM(光波長多重化)で送受

信できる。ローカルマシンの管理、電気代、ラックスペースなどに縛られず使用したいタイミングでマシンの使用が可能。

また、同社営業課の木村大輔氏は主力製品として、ポストプロダクション、映像制作会社、レンタル機材会社向けに開発したスケジューリングシステムを推す。木村氏は「編集室や機材、スタッフのシフト管理に加え、クライアントからの予約、仮予約などに対応したシステム。すべての入力をウェブブラウザ上で実行することにより、素材の持ち込み予定などを連絡事項として保存することができ、情報の共有化も容易だ」と説明した。

KORG

高音質の動画配信をデモ ライブVR映像で体験



ASKAのライブVR映像で「Live Extreme」の高音質を体験

業界史上最高音質といわれる「Live Extreme」を開発したKORG(コルク)は、ブース内にVR体験コーナーを設置。人気ミュージシャン・ASKAのライブVR映像を「Live Extreme」の持つロスレス/ハイレゾ音声を提供した。

「Live Extreme」は、ロスレス/ハイレゾによる高音質、マルチチャンネル・空間オーディオ配信対応、再

圧縮を回避した高い動画性能など高機能を持つ動画配信システム。特別な専用アプリが不要で、ウェブブラウザで再生可能な点も大きな特長。音楽ファンを中心に高い支持を得ている。

今回、同社のブースで体験展示されたのは、ASKAの「TOKYO SHIMPONIC WAVE 2022」および「ASKA VR 2020」のダイジェスト版。Inter BEE開幕前日(11月14日)から「VR MODEアプリ」で配信開始され、「Live Extreme」を使ったVR配信サービスとしては第一弾として話題になった。

エルザジャパン

360度自由視点システム 大型LEDを使って実演



サムスン電子製の大型LEDで自由視点システムをデモ

「この会場で体験展示するのは、ASKA本人からも告知されており、

これは、複数のカメラで撮影した映像をリアルタイムで合成・生成し、360度全方向からの映像を提供するシステム。同社執行役員の永井淳氏は「リアルタイムシステムとリアルタイム配信技術を組み合わせ、このシステムのデモは、エヌジーシー(NGC)が国内総代理店を務めている韓国・サムスン電子製の高精細LEDディスプレイ「ザ・ウォー」が利用された。

アストロデザイン 最適な画像解析提案 新しい映像表現・空間演出を実現

アストロデザインは、ワークステーションとこれまでの映像機器開発で培ったノウハウを生かして、映像処理に特化した、



空間体験をデザインするアンビエントシステム

8K映像専用のワークステーションに取り込める、リアルタイム物体検出などを実演。広域LEDディスプレイや高精細プロジェクター、マルチ解像度&マルチフレームレートに対応した映像表示システム、リアルタイムカラーグレーディング装置など、新しい映像表

ソフトウェアをベースに

現・空間演出を実現するシステムを披露した。同社は、これらの空間体験をデザインするアンビエントシステムを提案。営業部の相子拓也氏は「アンビエントシステムでは、ソフトウェアをベースに従来のハードウェアベースのシステムから転換する提案をした。これまでハードウェアベースのシステムが多かったが、ソフトウェアベースに変えることでコスト削減につながるメリットは大きい。照明、映像、音響などを一つの画面で集約することでより良い直感的な空間演出が可能になる」と話した。

ユニテックス AI自動アーカイブシステム主力に展示

ユニテックスは、AI自動アーカイブシステム「UNITEX Archive Edit Sport Edition」を主力に展示した。

同社技術部ソリューション開発グループの上坂成二氏は「これはプロスポーツチームなどが、試合で撮影する数千枚の写真データを顔や番号で選手・試合ごとに1枚あたり2秒ほどで自動振り分けしてデータ管理するやり方から大幅に時間と労力を削減できる。



AI自動アーカイブシステム (右は町田ゼルビアのマスコット)

データはLTOとCLOUDへ効率的な保存ができて、SNS発信含むPR

活動等に必要の際は、簡単に迅速に選手の写真を取り出すことが可

「360度自由視点システム4D Free View」を中心に展示した。エルザジャパンは、「360度自由視点システム4D Free View」を中心に展示した。同社は、東京都町田市にあり、同市を本拠地とするプロサッカーチームで今期J2で優勝した。来期にはJ1に昇格する「FC町田ゼルビア」の「FC町田ゼルビア」のスポンサーを長く務めている。上坂氏は「町田ゼルビアでは、当社のアーカイブシステムを導入してもらっているが、今回展示したようなAIを利用した新システムもゼルビアはもちろんだが、他のスポーツチームなどへ提案していきたい」と話していた。